

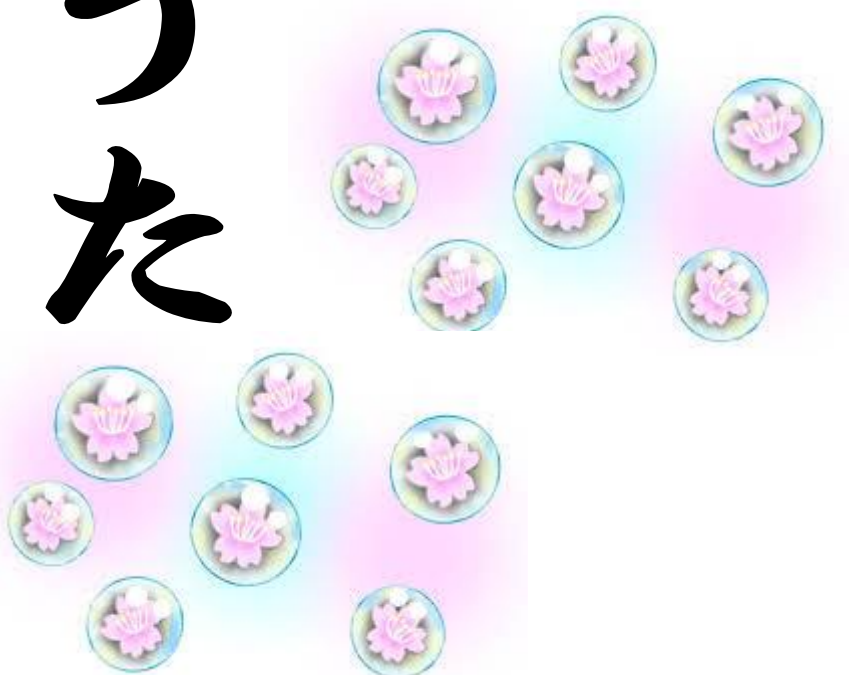
令和3年度 優秀作品集

第二十六回少年主張大会

第二十五回こども詩のコンクール

いろいろなうた

鮫川村青少年健全育成推進協議会



「こころのうた」の発刊に寄せて

鮫川村青少年健全育成推進協議会長（鮫川村教育委員会教育長）

武藤 誠

今年是一年間延期された二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。無観客での大会となりましたが、各競技に臨んだ選手の皆さんの素晴らしい活躍ぶりは多くの人々に感度を与えました。

その一方、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。特に今年は、首都圏を中心に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返し発出され、外出や移動の自粛など私たちの生活に様々な制限がかかり、学校においても授業や部活動、各種行事などを計画どおりに実施することができませんでした。

しかし、そんな状況ではありませんが、今年も各学校の協力を得、作品集「こころのうた」を発刊でき、たいへんうれしく思います。この「こころのうた」は、平成十五年頃に鮫川村の小・中学生や高校生が書き上げた意見文、詩や俳句などを集めて文集をつくったのが始まりです。それから約二十年近くにわたって、村の多くの方々に読み続けられ、子どもたちの豊かな心と豊かな感性を育む大切な役割を果たしてきました。

さて、本年度の作品集ですが、出品された作品を厳選し、優秀作品集として「第二十六回少年の主張大会」の入賞作品、そして、「第二十五回こども詩のコンクール」の入賞作品を掲載いたしました。これらの作品は、日常生活の中でふと考えたことや感じたこと、自然やもの、ことを見つめて受けた想いを、子どもたちが自分の言葉（文字）で表現したとても素晴らしい作品で、子どもたちのみずみずしい感性を感じます。そして、この感性はここ鮫川で生活してきたからこそ育まれてきたのです。

これからも自然豊かなふるさとでの生活の中で感じたこと、考えたこと、思ったことを自分の言葉で表現していつてほしいと思います。

結びになりますが、発刊に際しご尽力いただきました教育委員会事務局の皆様、作品指導や審査に当たられました鮫川小学校、鮫川中学校、そして修明高等学校鮫川校の先生方に厚く御礼を申し上げ、発刊に寄せての言葉とします。

第二十六回少年主張大会



- 努力することの大切さ
鮫川小学校五年 木村 梨乃・・・5
- 「頑張る心」を支えるもの
鮫川小学校六年 石井 憲成・・・6
- 僕ができること
鮫川中学校一年 根本 水翔・・・8
- 自分で人生を終わらせること
鮫川中学校二年 高野 朱莉・・・9
- 「仲間」という存在
鮫川中学校三年 鈴木 一真・・・11

□ 鮫川村で過ごして

修明高等学校鮫川校三年

赤坂

陽・・・12



■第二十五回こども詩のコンクール

小学校児童作品

□最優秀賞

鮫川小学校六年

中川西温基 . . . 14

□優秀賞

鮫川小学校二年

常盤 悠希 . . . 14

鮫川小学校三年

矢吹 碧唯 . . . 15

□佳作

鮫川小学校一年

生田目陽莉 . . . 15

鮫川小学校一年

阿久津颯太 . . . 16

鮫川小学校二年

藤元 駿斗 . . . 16

鮫川小学校二年

本郷 勇人 . . . 17

鮫川小学校三年

中川西杏未 . . . 17

鮫川小学校三年

岡部 七菜 . . . 17

鮫川小学校四年

石井 唯愛 . . . 17

鮫川小学校四年

高木 愛生 . . . 18

鮫川小学校五年 永山 智晴 . . . 18
 鮫川小学校五年 緑川 大 . . . 19
 鮫川小学校六年 生田目真優 . . . 19
 鮫川小学校六年 木之内慶斗 . . . 19



中学校生徒作品

□最優秀賞

鮫川中学校三年

武藤 春花 . . . 20

□優秀賞

鮫川中学校二年

中川 妃莉 . . . 21

鮫川中学校一年

高木 沙綾 . . . 21

□佳作

鮫川中学校一年

藤田 歩夢 . . . 22

鮫川中学校一年

矢吹 天響 . . . 22

鮫川中学校二年

石井 萌桂 . . . 23

鮫川中学校二年

本郷 芽生 . . . 23

鮫川中学校三年

藤元 蓮 . . . 23

鮫川小学校三年

北條 煌大 . . . 23



第二十六回少年主張大會作品

「努力することの大切さ」

鮫川小学校 五年 木村 梨乃

今年、東京オリンピックが開催されました。自分の力を信じて競技をする、世界中の選手達。みなさんはどんなことを感じましたか。

私は、オリンピックを通して自分をふり返り「努力することの大切さ」を感じました。

様々な競技の中で、特に心に残っている競技は、スケートボードです。私は、夏休みに家にあったスケートボードを練習してみました。簡単に乗れると思っていたが、かべに手をつけば立つことはできても、手をはなすとボードが動いてしまい立つことができませんでした。しかし、スケートボードの選手は、スケートボードを自由に動かして、曲がったりジャンプをしたり、様々な技を決めたりしていました。その姿がとてもかっこよかったです。日本選手史上最年少出場の開心那選手は、五才の頃からスケートボードを始めたというので見ました。私はそれを見て、長い間努力してきたんだなと思いました。きっと続けて行く中で、苦しいことやつらいことがあったかもしれません。それでも努力を続けた姿に感動しました。

オリンピックを見て、私が今まで努力してできるようにな

ったこと、続けられていることは何だろうと考えてみました。思い浮かんだのは、竹馬とバドミントンです。

竹馬は、幼稚園の時に友だちがやっているのを見て、自分も挑戦したいと思ったことがきっかけで練習を始めました。最初は、だれかに支えてもらわないと乗れませんでした。でも、転んでもあきらめないで何度も練習し、ついに乗れるようになりました。とてもうれしい気持ちになったことを覚えていきます。

バドミントンは、小学校二年から習っています。習い始めた頃は、なかなかシャトルを打つことができませんでした。練習を重ねるうちに、試合にもでられるようになり、バドミントンが楽しいと思えるようになりました。途中でやめたいという気持ちになることもありましたが、でも、一緒に習っている上手な友だちを見て、自分も負けないくらいに上手になりたいと思います。バドミントンを続けていくことにしました。何かチャレンジすることや、続けていくことは、簡単にできることではありません。途中でくじけそうになったり、あきらめそうになったりするときもあります。でも、あきらめずに続けていけば、くやしい気持ちで楽しい気持ちに変わることがあります。私はバドミントンを続けてきて、あきらめないという気持ちを知ることができました。

私が、これから大切にしていこうと思うことは、あきらめずに努力をし続けることです。きっと、オリンピックに出た



選手も、どんなにつらくても、自分の目標に向かって、あきらめずに努力し続けたんだろうなと思います。

私は、選手の活やくを見て、自分でできることを一生懸命にやり続けようと思いました。そして、自分の経験から学んだ「努力の大切さ」を、伝えていける人になりたいです。

「頑張る心」を支えるもの

鮫川小学校 六年 石井憲成

だれかに、
「今、一番頑張っていることは？」
と聞かれたら、ぼくはまよわず、
「バレーボールです。」と答えると思う。ぼくは、五年生からバレーボールを始めた。バレーボールは、最高に楽しい。多くの生活の中で一番楽しいと感じられる時間は、バレーボールの練習に取り組んでいる時間だ。

ぼくは、レシーブが好きなので、練習中かんとくのサーブや強れつなスパイクをうまくレシーブできた時は、
「シャーッ。」
とさけびたくなるくらい気分が盛り上がってしまう。ぼくは、そんなに背が高くないのでとにかくレシーブがうまくならない。相手が打ってくるコースを予想し、ボールの下に移動し、うでの角度を調整してうでにグッと力を入れるのがレシーブのコツだ。ぼくがレシーブしたボールをセッターがきれいなトスをあげ、それをアタッカーが相手コートにピシッと決めた時のあの感じは、「最高」以外の言葉が見つからない。自分のチームに得点が入り、仲間と一緒に喜び合うしゅん間が、ぼくは楽しくて仕方がない。

コロナで、練習試合などが延期になってしまっているのは残念だけど、週に三回も練習で汗を流すことができるのは、幸せなことだと思わなければならぬと思う。

練習の日は、ばあばとおばあちゃんがおにぎりやパンを準備してくれる。それを食べてから練習に行くので、夜七時半までの練習にたえることができる。もし、何も食べずに練習に行ったら、おなかがすきすぎてパワーが出ないと思う。

そう考えてみると、ぼくがこうして大好きなバレーボールを続けていられるのは、家族の協力があるからだ。練習に出かける前に、でっかいおにぎりを作ってくれる、ばあばとおばあちゃん。練習場所への送迎をしてくれるお母さん。試合の応援に来てくれるお父さんとお母さん。ぼくは、家族みんなに支えられて、大好きなバレーボールを続けることができる。ぼくを応援し協力してくれる家族のためにも、バレーボールを頑張らなければと思う。

ぼくが試合に出たり、試合中良いプレーをしたりすると、「憲成、良かったぞ。」

と家族からほめられる時がある。そんな時ぼくは、次も頑張ろうとか今よりもっと上手になりたいという気持ちになる。

もうすぐぼくは中学生になる。中学生になったら、もちろんバレー部に入部したい。今のぼくが頑張っていることと違って思い浮かぶのは、バレーボールぐらいしかないけれど、これからは、「自分が頑張っていると思えること」を増やし

ていきたいと思う。



僕ができること

鮫川中学校 一年 根本 水翔

僕は「SDGs」という言葉を初めて聞いたとき、何を指すのか全くわかりませんでした。「SDGs」とは持続可能な開発目標のことで、人類がこの地球上で暮らし続けていくために、二〇三〇年までに達成すべき目標です。二〇一五年九月の国際連合サミットで採択され、二〇二〇年一月から達成のための行動の一〇年がスタートしました。そのころから何度かテレビで取りあげられていたので、聞いたことがある人が多いのではないかと思えます。貧しい人々が取り残され、地球環境が悪化していき、あと百年ほどで地球に住めなくなってしまうと聞き、とてもびっくりしました。

SDGsのキーワードは「誰ひとり取り残さない」です。二〇三〇年までに達成すべき目標は一七項目あり、五つに分けて考えられたものがあり、わかりやすいなど感じました。五つとはPeople（人間）Planet（地球）Prosperity（豊かさ）Peace（平和）Partnership（パートナーシップ、連携）です。まず僕はPeople（人間）に注目しました。世界には、女性だからという理由で家事をさせられていたり、紛争地域に住んでいられるために巻き込まれたり、働かなくては生きていくことができない子どももいます。汚れている水を飲み、

お腹や体の調子が悪くなってしまったり、トイレがなく屋外で用を足す人もいます。僕は毎日学校へ行き、三食ご飯を食べ、水道があって蛇口をひねれば水が出てくる、トイレもある環境で生活しています。どこか自分に関係がないのではないかと、大変な生活をしている人がいることを知っていても、何もできないのではないかと思っていました。でも、それではこれまでと何も変わらないのです。地球上に生きていく、僕を含めひとりひとりが考え、取り組むべきことなのです。関係ないと思わずに、現状を把握し、残さず食べることや募金など小さなことですがやってみようと思います。

次に、Plastic（地球）です。水中にプラスチックごみが数多くあり、ウミガメや海鳥が食べてしまったり、からまって身動きできなくなってしまう動画を見ました。見ていて気持ちのいいものではなく、そんな海にしまっているのは僕たち人間なんだと反省しました。プラスチックごみの多くは使い捨て用プラスチックで、パッケージ用がほとんどです。日本はパッケージ用プラスチックごみの発生量はアメリカに次いで世界二位と多い国です。環境のことを考え、マイバッグやマイボトルを持ち歩き、過剰な包装は避け、プラスチックを少なくするようにします。僕は食べ終わった後のお皿をふいてから流し台に置くことにしています。汚れた水や油を流さないようにするためです。毎日の積み重ねが大切だと思います。

さらに、国連の気候変動に関する政府間パネルが「二〇四〇年までに世界の平均気温が一・五度上昇する可能性が高い」こと、「温暖化の主な要因は、人間の影響の可能性が極めて高い」ことを公表しました。地球温暖化の影響で異常気象となり豪雨や台風、土砂災害が発生、生き物への影響、生態系の変化、農作物の収穫量の増減：いろいろなことはつながっているのだと強く感じました。

今、現在、地球上に生きている僕たちができることをする。何が起るかわからないこの世の中で、誰ひとり取り残されることがなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、まずはSDGsの一七の項目を調べてみませんか。



自分で人生を終わらせること

鯨川中学校 二年 高野 朱莉

昨年の七月、テレビドラマや舞台で活躍されていた俳優が亡くなったニュースを見て、私はとても驚きました。私と同じように、驚いたという人が多いのではないのでしょうか。彼は自分の人生を自分で終わらせたのです。そのことを聞いたとき、芸能界という華やかな世界で生きていても、私たちにわからない苦悩や葛藤があったのだろう、それを誰にも言うことはできなかったのかなど、様々な思いが私の中に出てきました。それと同時に、なぜ彼は亡くなってしまったのか、その背景には何があったのか気になりました。

自分の人生を自分で終わらせてしまう要因はどんなものがあるのか、調べてみました。若年層では男女合わせて学校問題、家庭問題、健康問題の順であること、いずれも、女性が多いということがわかりました。学校問題では、「いじめ」や「不登校」の経験も強く関連していることもわかりました。私には、悩んだり、困ったりしたときに相談できる家族や友達がいまいます。話を聞いてもらっているだけでも気持ちや軽くなるように感じます。そんな人が近くにいなかったのでしょうか。それとも、言えなかったのでしょうか。「いじめ」や「不登校」を防ぐためにも、身近な人やスクールカウンセラー

に相談し、ひとりで抱え込んでしまうことのないような環境づくりが自ら命を絶つことを減らすことにつながると思いました。私は今、自分の思いや考えを口に出して伝えることができます。でも、全員がそうだとは限りません。思いや考えを表現することが難しく、もどかしい、やるせない、憎しみなのか、悲しみなのか、気持ちを抑えられなくなってしまうこともあるとおもいます。そんなときには、何も言わずにそばにいる、見ている、見守っている人がいることをわからせるといふことも大切なのではないかと思えます。

昨年五月にはリアリティ番組に出演されていたプロレスラーの方が亡くなりました。彼女はSNS上の誹謗中傷が原因ではないかとされています。なぜそんなことが起きてしまったのでしょうか。

SNSによる「性格悪い。生きてる価値あるの?」「早く消えろ。」「吐き気がする。」などの言葉は彼女の心をむしばみ、追いつめました。番組に出演することを決めたのはおそらく彼女自身だと思えます。ある程度、いろいろな意見が出てくることは予測できたかもしれません。しかし、その意見がいきすぎてしまったのです。彼女の番組内での言動だけでなく、存在すべてを否定する、家族や友人までも否定するものとなっていてきました。相手に対し、一方的なことを言ったとしても、彼女は彼女で生活する、生きる権利を持っているのです。人が幸せに生きるための権利「人権」です。お互いに相手の

立場を考え、思いやりの気持ちを持って相手に接する心が大切です。彼女にも反省しなければいけないこと、相手に対し思いやりがなかったことがあったと思います。それでも、誰にでも幸せに生きる権利があり、人が人の幸せに生きる権利を奪ってはいけません。誹謗中傷の言葉を書き込んだ人々は、名前も顔も、年齢、性別もわかりません。匿名で書き込むのです。名前や顔が相手にわからないから、自由に、思ったことや考えたことを書き込むのでしよう。

同じ地球上に生きている者として、自ら命を絶つ人が少しでも減るように、自分のことだけではなく、まわりの人や身近な人のささいな変化を見逃さないよう気をつけたいです。さらに、悩んだり苦しんだりしている人たちの居場所をつくる、法律や自治体の整備が整えられることを望みます。



「仲間」という存在

鮫川中学校 三年 鈴木 一真

「今年の中体連はできるのかな。」

三年生になった四月、僕の頭にはこの言葉がありました。

昨年は残念ながら中体連が中止となり、先輩たちと最後の試合ができなくなっていました。校長先生から、中体連が中止になったことを聞いた時のショックで落ち込む先輩の姿、中止という事実を何とか受け止めようとする姿が忘れられなかったです。

僕が野球を始めたのは小学三年の終わりごろでした。野球の中継を見て、やりたいと思ったのでスポ少に参加しました。打つ、守る、走る、投げる選手の姿に憧れたのだと思います。中学校に入学して、野球部に入部し、毎日の練習に体力も気持ちも追いつかないことがありました。日差しが強く、真っ黒に日焼けしながらボールを追いかけた守備練習、声を出して自分たちのチームの雰囲気をつくっていったこと、雪が舞う冬の校庭で、サーキットトレーニングをやったこと。手足の感覚がなくなるような寒い中、土日の練習を休まずやってきたこと。三年となった今では、つらい練習でも最後までやり抜いたことが僕の自信になりました。つらい練習をやり抜くことができたのは、一緒に練習した「仲間」がいたからで

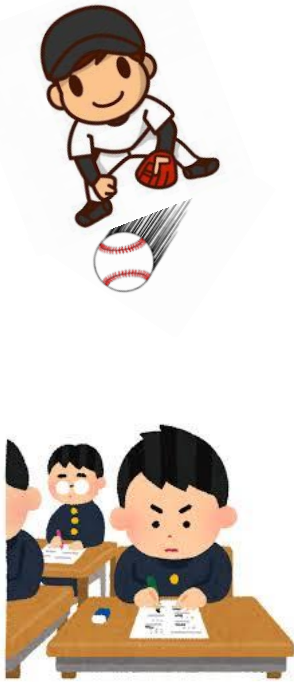
す。練習を自分だけ途中で投げだす、やめることは僕の中でやってはいけないことだと思えました。自分がつらいから、手を抜く。楽をしようと考え。けれども、寒くてつらいのは自分だけではない、きっとまわりのみんなも同じはずだ。「仲間」という存在が最後までやり抜く力を与えてくれました。

最後の中体連は、無観客でしたが何とか実施することができました。多くの人のおかげで試合ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。「仲間」と共に戦うことができうれしかったです。僕はミスしてしまい、満足するような試合内容ではありませんでした。「仲間」に何度かフォローしてもらいました。ありがたうと思う気持ちでいっぱいです。「仲間」がいることで、野球を最後まで続けることができました。「仲間」がいることが僕自身を支えてくれました。支えてもらったことから、今度は頑張ろう、僕もフォローできればいいな、と考えるようにもなりました。

六月に予定されていた修学旅行や行事は延期され、中学校生活最後の年は何もなくなってしまうのかと寂しい気持ちになることがあります。でも、行事やイベントなどの「特別な日」だけではなく、教室で一緒に受ける授業や休み時間の会話、前を向いて食べる給食。無言できれいにする清掃、朝と帰りの学活。部活の「仲間」だけでなくクラスの「仲間」と共に過ごす毎日、「日常」もかけがえのないものであると気づ

きました。休校期間中は学校に行けず、「仲間」に会えず、とてもつまらなかったです。一学期、楽しく過ごすことができずと一緒で、数えると十年以上一緒にいますが、みんなお互いによく飽きることはないな、とも思います。一緒にいるのが当たり前になっていて、家族のような、家族とはちよっと違うような存在です。お互いが支え合い、励まし合い、信頼しているのです。

二学期がはじまったら、受験に向けていろいろ進めることとなります。勉強ももっと忙しくなるでしょう。高校に行ったら、今いる「仲間」と別々の道を歩むこともわかっていきます。楽しかったとき、つらかったとき、苦しかったとき、寂しかったとき、悲しかったときにそばにいてくれた、支えてくれた「仲間」がいることを忘れずに、入試という大きな壁を乗り越えてみせます。卒業式を迎えるその日まで、三年生の「仲間」との日常を大切にしたいです。



鮫川村で過ごして

福島県立修明高等学校鮫川校 三年 赤坂 陽

私は、保育園からこの鮫川村で過ごしてきました。毎日、友達と遊んで、時には泣き出すほどのけんかをしたり、友達と一緒にふざけて先生に怒られたりもしました。でも、今となっては良い思い出です。

小学生の時には、鼓笛パレードの一員として、音楽を奏しながら鮫川村を歩き回りました。外で見てくださっている方々が、私たちの演奏で笑顔になっている姿に、私も楽しくなり、心が通い合っているように感じました。また、小学校最後の運動会は、今でも記憶に残っています。前日の大雨で校庭はぐちゃぐちゃになり、中止も考えられていました。それでも、先生方や保護者の方々、そして地域の方々の協力が無事開催することができました。私は、運動会ができることよりも、地域の方々がこんなにも応援してくださっていることがとても嬉しかったです。だから、泥だらけになりながらも最後までやりとげることができました。

中学生になると、マラソン記録大会があり、その時も地域の方々がたくさん応援してくださいました。そのおかげで生徒全員、最後まで走り切ることができました。また、村のイベント「うまいもの祭り」のボランティアにも参加しました。

そこでは、子ども連れの方や遠方から来てくださった方もいて、村の盛り上がりを感じました。自然が美しいこの村に多くの人が訪れ楽しんでくれたことを、自分のことのように嬉しく思いました。

高校は、修明高校鮫川校に進学しました。居心地のいいこの場所で、新しい友達を作り、一緒に過ごしたいと思ったからです。しかし、入学してみると、同級生は少なく、さらに閉校の話も進み、とても寂しくなりました。そんな中、鮫川村に住むお年寄りの方々の自宅を訪問させていただく「支え合い隊」という活動に参加しました。初めてのことで、どう接すればよいか戸惑い緊張しましたが、挨拶をすると笑顔で出迎えてくださいました。私たちが手書きのメッセージカードを渡すと、とても喜んでくださり、私も嬉しくなりました。後日、お礼の手紙が届き、はっきりと書かれた「ありがとう」の文字に胸がいっぱいになったのを覚えています。どの自宅でも、突然訪問した私たちに快く接してください、良い時間を過ごせたことは、これからもずっと大切な思い出です。

私は、鮫川村でたくさんの地域の方々と関わり、心の交流ができたことをとても光栄に思います。改めて思うことは、この村は安心して暮らせる場所だということ。心と心のつながりが安心を生むのだと感じています。私は今、家の事情で白河市から高校に通っています。そのため、高校を卒業したら、この村に戻ってくる機会が少なくなります。鮫川村

を離れるのはすごく寂しいですが、作ってきた思い出は、ずっと消えません。来年三月、鮫川校は閉校を迎え、私が三年間過ごしてきた学校、ずっとこの村と歩んできた学校が、なくなってしまうです。それでも私は、笑顔で校舎とお別れし、新たな道を歩いていきたいと思っています。そう思えるのは、心が通い合う自然豊かなこの鮫川村で過ごした全ての時間が、私にとっての「誇り」になっているからです。



第二十五回 こども詩のコンクール作品

詩のコンクール

小学生児童作品

最優秀賞

「六年間の夏」

小学生最後の夏

これまでたくさん苦勞があった

ボールを投げられなかったり

捕れなかったり

打てなかったりしていた

だけどぼくは変化した

ボールを投げてアウトにし

フライを捕ってアウトにし

ヒットを打って塁にでたりできる

だからぼくは

悔いを残さず頑張る



六年 中川西 温基

優秀賞

「おかわり」

おかわりするのが大すきで

大すきなものはおかわりする

でも、おかわりしない

でも、おかわりにきをつかって

わりしておかわりする

けっきょくのこして

「ごめんさい」

おかわりするのが大すきで

大すきなものはおかわりする

おかげで太って

うんどうかいでびりっけつ

おかわりぶんのうんどうってどれくらいかな

でも、おかわりは

これからもやめられない

二年 常盤 悠希



「カブト虫のたたかい」

でかいカブト虫はつのがよく動く

相手を下から上へもち上げる

ゴキゴキバキバキ

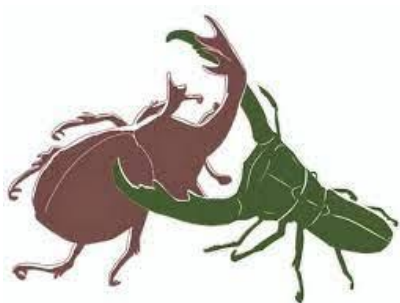
音を立てながら

自分もたおれるいきおいで

相手をなげとばす

まるでじゅうどうだ

一本！



三年 矢吹 碧唯

佳 作

「こんばんは おつきさま」

こんばんは

くもにかくれたおつきさま

はやくでてきておかおをみせて

まっくらなむらをしてらしてよ

どうぶつたちがまいごになるよ

あさにはおひさまつれてきて

わたしをやさしくおこしてね

おやすみなさいおつきさま



一年 生田目陽莉

「ぼくのあさがお」

一年 阿久津颯太

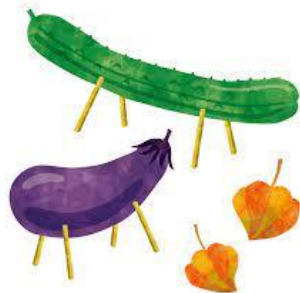
たねをまいたころは
なかなかめがでなかつたあさがお
どんどんどんたつうちに
ぐんぐんぐんぐんのびてって
きれいなみずいろのはなが
ぱっとひらいた
きれいなきれいな
おおきなおおきな
ぼくのあさがお



「にいぼん」

二年 藤元 駿斗

きよねんが生きしてなくなった
ひいばあちゃん
おぼんにかえってくるんだって
どうやってくるの
いえのげんかんから
おうちわすれていないかな
八月になり
にわにとうろうが立って
あかるくすると
ちゃんとかえってくるんだって
ふしぎだな
ぼくをいつまでも
見まもっていてね



「カブト虫」

木のみつをすうカブト虫

ぼくはきみをつかまえない
大きい虫カゴじゅんびして
じいちゃんと山にしゅっぱつだ
みつけたみつけたカブト虫
あみかまえてつかまえた
だいにだいにそだてるよ
ぼくはきみが大ききだ

二年 本郷 勇人



「お姉ちゃん」

お姉ちゃんはいつもわらってる

お姉ちゃんはいつも私の味方
けんかしてもすぐになかよくできる
いつもいろんな事を教えてくれる
私はお姉ちゃんに何をしてあげられるかな
明日もまたいっしょに遊ぼうね

三年 中川西杏未



「友だち」

友だちはどうしているんだらう

友だちは何のためにいるんだらう
それを考えてみたら
友だちがいなくて何もできない
でも友だちがいると力をあわせて何のこともできて
思い出もたくさん作ることができ
友だちがいなくてできないこともある
だから友だちって大切なんだな

三年 岡部 七菜



「一つまなんだスイミング」

大雨の日のスイミング

覚えたてのせ泳ぎ
体が氷のように
かたまって動かない
だんだんしずんでいく
コーチが笑って助けてくれた

四年 石井 唯愛



「大切な人」

大切に大好きな人
それは家族
わたしの家族は笑顔
お母さんの笑顔
お父さんの笑顔
お姉ちゃんの笑顔
その笑顔でわたしも笑顔になれる
そんな家族が
大切に大好きな人



四年 高木 愛生

「空の形」

春の空
入学校舎の桜ふぶき
夏の空
暑い日ざしの緑の葉
秋の空
木の実落ちゆく味覚あり
冬の空
黒い天から白の雪
夜になればと
星空へ
朝になればと
青空へ



五年 永山 智晴

「セミの合唱」

五年 緑川 大

朝から

シャンシャンシャンシャン

ツクツクツクツクと鳴いている

ああ今日もいい天気だなあと思う

ミーンミンミンのBGMで宿題を始める

いつのまにか

ジリジリジリジリの音色に

今日の暑さが伝わる

カナカナカナカナの音を聞くと

一日の終わりを感ずる

コロナ禍で家で過ごした今年は

オリンピックもすごかったけれど

セミのリレーもとてもいいバトンパスだった



「人間」

六年 生田目真優

人にはいろんな関係がありいろんな人がいる

親子、いとこ、はとこ、親戚、友達

いろんな関係があっても同じ人はいない

いろんな顔、いろんな性格、いろんな特技、いろんな名前

みんなちがうから

相手を思う気持ちを大切にしないといけない

私は人間に生まれて自分の個性や思いやる気持ち

それを大切にして生きていきたい

「でっかい手」

六年 木之内慶斗

でっかい手

やさしくてかっこいい手

ぶあつい手

なんでも直しちゃうよごれた手

そんなお父さんのでっかい手が

ぼくは大大大大好きだ



詩のコンクール

く 中学生徒作品く

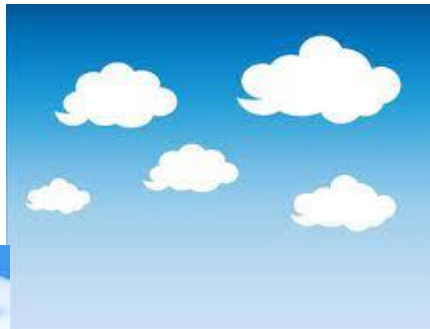
最 優 秀 賞

「空に恋する」

三年 武藤 春花

私は空が好きだ
空は毎日何度見ても私をあきさせない
空が明るいうちは
色々な形の雲に出会うことができる
毎日形を変えて同じ形になるなんて一度もない
きれいと思う雲に出会っても
すぐに別れまた新たな雲に恋する
写真におさめきれいに残す
鮫川の自然と空は最高のツーショットだ
日は暮れて夜になる
空は暗くなり夜空が広がる
夜空には沢山の輝く星が光る
日によって星の光りの強さが変わる

鮫川の夜空はいつ見てもきれいで
意識が空に集中する
こんなきれいな空にあきることなんてないだろう
私はこれからもずっと
この果てしなく続く空に
思い届かぬ恋をする



優 秀 賞

「大切な家族」

私がおちこんでいる時
こまっっている時
なやんでいる時
いつもそばには家族がいた
私が泣いている時も
いつもそばには家族がいた
私の家族はいつも笑顔
どんなに疲れていても
つらくても
私の家族の顔からは
笑顔が消えることはない
その笑顔で
私も笑顔になれる
笑顔でいられる
私はそんな家族が
大好きです



一年 高木 沙綾

「本当の私」

ずっと私の思う本当の私の姿で過ごす
正直に素直に
でもきつとそれも違う姿で
本当の私はその真逆で
変えたい気持ちもあるけれど
なかなか変えられなくて
誰にも素直になれない
友達にも家族にも
それで知らないうちに
誰かを傷つける
本当の私なら
誰も傷つけないけれど
きつと誰かを傷つけるのは
私が変わりたいから
変われるように誰かを傷つけることのない
私を見つけるため
これからまた本当の私を探す

二年 中川 妃莉



佳作

「新しい悔しさ」

夏休み中の大会

順ちように勝ち進み

勝てば県大会出場の試合まで行った

緊張しながら試合にのぞんだ

結果は負けてしまった

僕はバインダーをもって審判席に向かった

そして審判の方にこう言われた

「泣く所だけどなんで笑ってるの」

僕はこの試合がとても楽しかった

でも楽しかったという気持ちも

新しい悔しさなのかもしれない



一年 藤田 歩夢

「友達ってなに？」

皆といつもいっしょにいた

楽しかった

友達だと思った

友達が悪いことをした

注意できなかった

友達がこれ好きって言った

私は嫌いだけど好きって答えた

友達が外であそぼって言ってきた

いやだったけどいいよって答えた

これって本当に友達なの？



一年 矢吹 天響

「小さな生命」
いのち

キャンキャンキャン

私の手の中で元気に鳴く小さな生命
いのち

ワンワンワン

隣で子供を心配そうに見つめる母親

ごめんごめん

そっと元居た場所に戻す

かわいいかわいい

家族がふえたね

二年 石井 萌桂



「暑い夏」

太陽より明るく元気で

力を合わせ練習する

毎日毎日

輝いているあの瞳

少しずつ成長していく

私たち

二年 本郷 芽生



「夕立」

空の奥を見るとたくさんの入道雲がある

もうすぐ夕立が来る

夕立後には

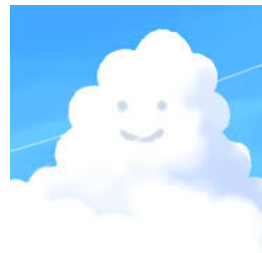
オレンジ色に染まる空

空を覆う虹

夕日が反射する小さな池

夕立後には気持ちりが晴れになる

三年 藤元 蓮



「母」

練習、試合、大会の時

必ず応援してくれる母

観戦するのが好きな母

勝っても負けても

「がんばった」の笑顔の母

コロナのため無観客だった最後の試合

母に観てもらいたかった最後の試合

三年 北條 煌大



令和三年十一月 発行

発行者

鮫川村青少年健全育成推進協議会
事務局 鮫川村教育委員会教育課